

2021年1月13日(水)

老球の細道586号

偉大なコーチ山崎先生の思い出〈PART14〉

バスケットボールコーチ 室井 富仁

◆7月26日(日)

夜中の2時に起きて、夜逃げ同然にバスでエバンズビルを後にした。生徒たちは一睡もしなかったせいかなダメなゲーム時と同様ボーっとしていた。もちろん私は元気はつらつオロナミンCドリンク(昭和の人しかわからない)。エバンズビルでの充実感がそうさせた。

バスで3時間、無事ケンタッキー州ルイビルに到着。わが敬愛するコーチ、リック・ピテイーノが指導するルイビル大がある。ここでまたもやトラブルが発生。ルイビルからデトロイト直行便のチケットがなぜかキャンセルになっていた。しかたがないので、一度テネシー州メンフィスまで南下してデトロイトに向かうことになった。

飛行機に1回余計に乗れ、しかもメンフィスはあのエルビス・プレスリーの生誕地。なかなか行けない土地であり、雰囲気だけでも味わえれば来た甲斐あり。しかも眼下には世界一長いミシシッピ川が見える。プレスリーじゃないが「イエーイ！イエーイ！」だ。ここで、山崎先生や徳島の富田先生達とはさよならとなった。会津高校は別スケジュールを組み、ロサンゼルスで一日観光をして帰る。

デトロイトからロサンゼルスまでは約4時間の飛行旅。アメリカのビールを飲みながら眼下の壮大な風景を楽しんだ。特に五大湖の一つミシガン湖を横断した時は、その大きさに圧倒された。幼少の頃、猪苗代湖が海だと思っていた頃が懐かしい。やはり、人間は広く、大きな世界に飛び出さなければならない。特に少年時代はその影響大である。

無事ロサンゼルスに到着。生徒曰く「日本人や東南アジア人が多くてアメリカに来ている気がしない」。多民族国家に圧倒させられていた。ロサンゼルス空港でもまたもやトラブル発生。会津高校ツアーグループの手荷物が手荷物カウンターから出てこないのである。待っても待っても出てこない。別便で別な空港に運ばれてしまったのではないかと、私は不安のフアンどころではなくフィアンセになっていた。あちこち皆で探していたら、別な場所に保管されているのを生徒が発見した。あちこち乗り継ぎしているうちに荷物だけが別の飛行機で先に着いていたということだった。まずは一安心。

空港から出て、まずはそのままマイクロバスでNCAAの聖地「UCLA(カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校)」に向かった。私は3回目の訪問となったが毎回心が躍る。夏休みだったのでバスケットボールの練習は行われていなかったが、バスケットボール専用体育館「ポーラー・パビリオン」は開放されており館内を見学することができた。生徒たちは体育館のスケールの大きさに(コート4面)度肝を抜かれていた。日米のバスケットボールのステイタスの違いを見せつけられた。この体育館でかつて、コーチの神様、ジョン・ウッデンは「UCLA オフェンス」を創り、アブドル・ジャバー、ビル・ウオルトン、レジー・ミラーなど数多くのNBA スーパースターを育て上げたのである。 〈続く〉